参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
憲法 （外国語、体育以外の科目）		（講義・演習・実習）	柴田　淳
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

憲法は実生活とどうつながっているか、また他の法律や規則とどのように関連しているかを理解する。

［授業全体の内容の概要］

憲法の条文を踏まえ判例や事例を紹介し、どのように私たちと憲法が関わっているのかを考えてもらいます。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

憲法の条文を理解し、人権や政治部門との関連を説明できるように努めること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　憲法と立憲主義・日本憲法史
３，４　日本国憲法の構成と基本原理・平和主義
５，６　基本的人権
７，８　包括的人権と法の下の平等・精神に関する自由権
９，10　身体に関する自由権・経済に関する自由権
11，12　社会権
13，14　参政権と国務請求権・国民の基本的義務
15，16　立憲民主制の原理
17，18　国会と立法権
19，20　内閣と行政権
21，22　裁判所と司法権
23，24　地方自治
25，26　財政
27，28　憲法改正
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「憲法」（豊岡短期大学テキスト）、「ニュース解説室へようこそ！2017年版」（清水書院）、「世の中の動きに強くなるライブ！現代社会2017」（帝国書院）、「政治・経済資料」（東京法令出版）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　20%　課題 50%　試験 30%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
情報リテラシーと処理技術 （外国語、体育以外の科目）		（講義・演習・実習）	玉橋修一
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 （2単位）	1年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・情報化社会におけるセキュリティ対策の基礎知識を身につける。
・セキュリティの必要性を理解し、セキュリティ自己からの対処の仕方を学ぶ。
・情報処理の一般知識（ソフト・ハード・通信）を身につける。

［授業全体の内容の概要］

学生の現在の状況から携帯端末を使用する機会は多いと思いますが、セキュリティに関して深く考察することはあまりないと思います。今後の事業所における情報活用と相俟ってしっかりとしたデータの活用の仕方や、効率的な処理の仕方や必要性を学びます。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

情報化社会におけるセキュリティの仕組みや必要性を理解し、それを踏まえてインターネットや携帯端末をうまく現場で活かせる能力を身につけることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　情報化社会の現状の把握及びその発端を少し探る	31 32 Wordの操作①　Wordの基本
3，4　コンピュータの発展・パソコンといわれる端末を注視し、目を向ける	33 34 Wordの操作②　文字の入力と基本操作
5，6　コンピュータの仕組みとハードウェア、五大装置及び機能	35 36 Wordの操作③　文章の編集
7，8　ソフトウェアおよびオペレーションシステムの管理項目	37 38 Wordの操作④　文章の印刷
9，10　アプリケーションソフトの分類とワード、エクセルの活用	39 40 Wordの操作⑤　文書の作成
11，12　情報とネットワーク・基本的な仕組み、発展の歴史	41 42 Wordの操作⑥　表を使った文書の作成
13，14　情報とネットワーク・ＳＮＳなどの実践処理を通して活用の仕方を学ぶ	43 44 Wordの操作⑦　図形や画像を使った文書の作成
15，16　インターネットの活用の仕方の学習、及びセキュリティの必要性	45 46 Excelの操作①　Excelの基本
17，18　脆弱性によるセキュリティ自己、その対処の仕方	47 48 Excelの操作②　データの編集
19，20　家庭や事業所におけるデータの扱い方、及び今後の問題点への注視	49 50 Excelの操作③　表の編集
21，22　情報が変えていく社会	51 52 Excelの操作④　ブックの編集
23，24　ソフトウェアの見直し、特にＯＳの管理項目の復習	53 54 Excelの操作⑤　グラフと図形の作成
25，26　コンピュータの五大機能と代表的な装置	55 56 Excelの操作⑥ブックの利用と管理
27，28　ハードウェアの見直し、特に記憶装置の復習	57 58 Excelの操作⑦　関数、データベース機能
29，30　現場での情報活用の考察、個人の携帯端末の扱い	59 60 授業のまとめ、試験

［使用テキスト・参考文献］

「情報リテラシーと処理技術」（豊岡短期大学テキスト）
「Word 2010 クイックマスター」ウィネット
「Excel 2010 クイックマスター」ウィネット

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
レポート 50%　　最終試験 50%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
英語コミュニケーション (外 国 語)		(講義・演習・実習)	福原純子
授業回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 (2単位)	1年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

現場で必要とされる基礎的な英語の読解力を養い、歌や絵本による英語表現活動を中心に据え、現場で役立つコミュニケーション力の向上を目的とする。

[授業全体の内容の概要]

簡単な英文が読解でき、会話につなげるために、英語文法の基礎を理解する。また、英語の童謡、手遊びなどを学習することで、現場で役立つ知識を得る。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

英語の基礎となる英文読解を正しく行うことが出来る。保育現場で使用される英語表現を身につけることが出来る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1, 2 オリエンテーション (Interview, Placement test)	31 32 The Nursery School Staff
3, 4 英語の文法 (主語と述語、be動詞と一般動詞、Reading 1、発音練習)	33 34 The Map of a Nersery School
5, 6 英語の文法 (基本的な一般動詞とそれに続く語、2種類の修飾語、比較)	35 36 Time & Numbers
7, 8 英語の文法 (Reading 2、手遊び、人称代名詞のまとめ)	37 38 Things Children Need
9, 10 英語の文法 (疑問詞を用いた疑問文、命令文、感嘆文、助動詞)	39 40 Mental & Physical Conditions
11, 12 英語の文法 (Reading 3、発音練習、歌)	41 42 Daily Schedule:A 5-Year-Olds' Class
13, 14 英語の文法 (未来を表す表現、進行形、完了形、受動態)	43 44 Daily Schedule:A Toddlers' & Infants'Class
15, 16 英語の文法 (Reading 4、発音練習、5文型、2語以上からなる主語・目的語・補語)	45 46 The Message Notebook
17, 18 英語の文法 (Reading 5、発音練習、歌、手遊び、様々な修飾語句)	47 48 The Face&Body
19, 20 英語の文法 (Reading 6、発音練習、接続詞、動詞がかかわる表現、品詞のまとめ)	49 50 Injuries& Illnesses
21, 22 保育の英語 (入園準備、登園・降園、Reading 7、手遊び)	51 52 First Aid & Medical Care
23, 24 保育の英語 (室内遊び、折り紙、外遊び・喧嘩、健康・病気・けが)	53 54 Baby Development
25, 26 保育の英語 (Reading 8、A play、運動・お散歩、着替え・トイレ)	55 56 Graduation
27, 28 保育の英語 (Reading 9、Teacher's Role、工作・お絵描き、乳児保育)	57 58 National Holiday & Celebrations
29, 30 保育の英語 (おたより・行事、連絡帳)	59 60 全体のまとめ、試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「英語コミュニケーション」(豊岡短期大学テキスト)、 「うたおう！マザーグース」(アルク出版) 「保育英語の練習帳」萌文書林	(試験やレポートの評価基準など) レポート 50%　最終試験 50%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
健康科学 （　体　育　）		（講義・演習・実習）	佐藤政志
授業回数 15回	時間数（単位数） 15時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

日常生活においては、テレビ番組、健康雑誌、健康器具などで健康に関する情報があふれており、私たち国民の関心の深さをうかがうことができる。このような状況の中、高齢化社会を迎えているわが国において、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくができるようになることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・自己の体力増進や健康管理ができるとともに、自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。
・運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　健康な生活設計①　自己の健康管理を考える
2　健康な生活設計②　喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
3　運動の基礎理論①　トレーニング方法について学ぶ
4　運動の基礎理論②　現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
5　運動生理学①　運動が身体に及ぼす影響
6　運動生理学②　運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める
7　救命救急①　処置についての知識と対処法
8　救命救急②　ＡＥＤの取扱い方を学ぶ
9　運動処方①　運動処方の内容について学ぶ
10　運動処方②　運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
11　運動処方③　ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ
12　健康日本21　「健康日本21」から自己の健康への課題を探る①
13　健康日本21　「健康日本21」から自己の健康への課題を探る②
14　生活と運動　自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ
15　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など）
「健康科学」（豊岡短期大学テキスト）	

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園、保育園、認定こども園での子どもへの指導歴約15年

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
スポーツ（実技） （　体　育　）		（講義・演習・実習・実技）	佐藤政志
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・前期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。

［授業全体の内容の概要］

各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　コーディネーション運動①
３，４　マットを使った運動①
５，６　マットを使った運動②
７，８　鬼遊び①
９，10　鬼遊び②
11，12　跳び箱を使った運動①
13，14　跳び箱を使った運動②
15，16　コーディネーション運動②
17，18　鉄棒を使った運動①
19，20　鉄棒を使った運動②
21，22　ボールを使った運動①
23，24　ボールを使った運動②
25，26　フープを使った運動①
27，28　フープを使った運動②
29，30　指導案の作成、模擬指導

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「健康科学」（豊岡短期大学テキスト）	①授業態度 ②体育館での行動の仕方・安全への配慮・マナー ③子供たちの模範となる動き（運動技能）の習得 ④正しい補助　⑤指導案・模擬指導の内容

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園、保育園、認定こども園での子どもへの指導歴約15年

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育方法論 （外国語、体育以外の科目）		（講義・演習・実習）	柴田　淳
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・後期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

1. 教育方法に関する基礎知識や思想を理解する
2. 現代の教育方法をめぐる課題について考える

［授業全体の内容の概要］

教育方法に関する基礎知識や、教育方法をめぐる思想について学びます。そのうえで、現代の教育方法をめぐる諸課題について考え、それに対してどうしていくべきか考えることが求められます。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 教育方法に関する基礎知識や思想を説明できる
2. 現代の教育方法をめぐる課題について自分の考えを示すことができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　教育方法論とはなにか
３，４　幼児期の教育方法概論
５，６　教育方法の歴史的展開①
７，８　教育方法の歴史的展開②
９，10　学習指導
11，12　生徒指導（実際と課題）
13，14　教育メディアと情報社会①（情報社会がもたらしたもの）
15，16　教育メディアと情報社会②（教育メディアの有効性）
17，18　保育方法（環境と遊びをつうじて）
19，20　保育方法（小学校・地域との連携のデザイン）
21，22　保育方法（集団の育ちとふさわしい生活）
23，24　保育形態
25，26　幼児期の教育方法と児童期の教育方法の比較
27，28　現代の教育方法をめぐる諸課題
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「教育方法論」（豊岡短期大学テキスト）、大豆生田啓友 他「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房 2012年）	（試験やレポートの評価基準など） レポート、科目試験の結果を総合して評価する。

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育原理 （　保　育　原　理　）		（講義・演習・実習）	松延 毅
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。

［授業全体の内容の概要］

保育原理では、子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・「遊び」の定義と保育の現状把握について理解を図り、自分の言葉で説明できる。
・保育の社会的意義や保育制度、近代の保育思想について理解を深め、具体的な事例を踏まえながら多角的な視野で保育を考え、自分の言葉で説明ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
１，２　保育の理念と概要
３，４　保育の社会的役割と責任
５，６　子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令
７，８　保育の実施体系
９，10　保育所保育指針に基づく保育
11，12　保育の目標と方法
13，14　乳児の保育
15，16　１歳以上３歳未満児の保育
17，18　３歳以上児の保育
19，20　子ども理解に基づく保育の過程①　理論編
21，22　子ども理解に基づく保育の過程②　実践編
23，24　諸外国の思想と歴史
25，26　日本の保育の思想と歴史
27，28　諸外国の保育の現状と課題
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ①保育原理」（中央法規）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」	レポート 50%　試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	認定こども園にて、園長として勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育原理 （　教　育　原　理　）		（講義・演習・実習）	柴田　淳
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・レポート作成を通じて教育原理に関する知識を習得・整理するとともに自身の意見を考えることができる。
・教育原理に関する体系的な知識を習得しており、それに対する自身の意見を持ち、文章で表現することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　教育の意義、教育の目的
３，４　乳幼児期の教育の特性
５，６　教育と子ども過程福祉の関連性
７，８　人間形成と家庭・地域社会
９，10　諸外国の教育思想
11，12　諸外国の教育の歴史
13，14　日本の教育思想・歴史
15，16　子ども観と教育観
17，18　教育制度の基本
19，20　教育の法律と行政
21，22　諸外国の教育制度
23，24　教育実践の基礎
25，26　さまざまな教育実践
27，28　生涯学習社会における教育の現状と課題
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「教育原理」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園	レポート 50％　試験 50％

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
こども家庭福祉 （子ども家庭福祉）		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 (2単位)	こども保育総合科／こども保育幼稚園科 1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

・現代社会の子どもや家庭を取り巻く状況、制度や施設について理解する
・児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する

[授業全体の内容の概要]

望ましい保育者となるために、福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性などが必要です。本授業の中では支援を必要とする子どもと家庭に対しての制度や施設について学びます。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・支援を必要とする子どもと家庭の背景・状況について正しく理解する
・こども家庭福祉に関する各種社会資源について理解する

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1，2　子ども家庭福祉の理念と概念
3，4　現代社会とこども家庭福祉（少子化、家族の変化、貧困、いじめ）
5，6　児童の人権擁護とこども家庭福祉（児童の権利条約、児童憲章）
7，8　こども家庭福祉の現状と課題① 障碍児への支援
9，10　こども家庭福祉の現状と課題② 母子保健
11，12　こども家庭福祉の現状と課題③ 児童虐待・DV
13，14　こども家庭福祉の現状と課題④ 少年非行
15，16　こども家庭福祉の現状と課題⑤ 児童健全育成
17，18　こども家庭福祉の現状と課題⑥ 社会的養護
19，20　子ども家庭福祉の現状と課題⑦ 保育サービスと子育て支援
21，22　子ども家庭福祉の行財政（県・市の役割、福祉事務所、児童相談所）
23，24　こども家庭福祉の制度と法体系（児童福祉6法）
25，26　こども家庭福祉の歴史的変遷（日本、諸外国）
27，28　保育・教育・療育・保健・医療等との連携・ネットワーク
29，30　授業全体のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「新基本保育シリーズ③こども家庭福祉」(中央法規)、 「よくわかる子ども家庭福祉」(ミネルヴァ書房)	(試験やレポートの評価基準など) レポート 50%　試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会的養護Ⅰ （社会的養護Ⅰ）		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・社会的養護が必要な子どもたちについての理解を深める

・社会的養護を必要とする子どもを護るための施設や専門職、制度や法律についての知識を得る

［授業全体の内容の概要］

本授業は保育実習Ⅰ（施設）を行うに当たっての必修科目となる。主に施設で暮らす子どもたち（家庭で両親と暮らせない子どもへの支援）について考えるが、保育所など地域の中にも要保護児童はいるため、現状や対策についても学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・社会的養護を必要とする子どもについての状況を理解し、子どもの権利を守る方法について考えることができる。

・施設養護、家庭養護両面についての支援方法について理解を深めることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　社会的養護の理念と概念
３，４　社会的養護の歴史的変遷
５，６　子どもの人権擁護と社会的養護
７，８　社会的養護の基本原則
９，10　社会的養護における保育士等の倫理と責務
11，12　社会的養護の制度と法体系
13，14　社会的養護のしくみと実施体系
15，16　社会的養護とファミリーソーシャルワーク
17，18　社会的養護の対象と支援のあり方
19，20　家庭養護と施設養護
21，22　社会的養護にかかわる専門職
23，24　社会的養護に関する社会的状況
25，26　施設等の運営管理の現状と課題
27，28　被措置児童等の虐待防止の現状と課題
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑥社会的養護」（中央法規）、 「よくわかる　社会的養護　第2版」2012（ミネルヴァ書房）、	（試験やレポートの評価基準など） レポート 50%　試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園、子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
教職論 （　保　育　者　論　）		（講義・演習・実習）	柴田　淳
授業回数 30回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

1. 教職(保育)の広い役割を理解し、その意義を考える
2. 教職(保育)の制度や法的な義務について理解する
3. 現代の課題に応えるための教職の資質能力を理解する

[授業全体の内容の概要]

本授業は望ましい教職者(保育者)とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身につけなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者(保育者)の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職(保育職)の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者(保育者)間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職・保育理論の理解を深め、教職者(保育者)としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

1. 教職(保育)の役割や法的義務などの基礎知識を理解し、説明することが出来る
2. そのうえで、教職(保育)の意義を自らの言葉で述べることができる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１，２　教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か
３，４　教職（保育）者に求められる資質・能力
５，６　教員（保育者）養成の歴史
７，８　教職（保育）者資質と役割
９、10　指導計画（保育のねらい・内容）
11，12　教職（保育）者の仕事・義務・研修
13，14　教職（保育）者の職場環境
15，16　教職者の制度的な位置付け
17，18　教職者の任用と服務
19，20　教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）
21，22　教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携
23，24　教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割
25，26　職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）
27，28　今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）
29，30　授業のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「教職論」(豊岡短期大学テキスト)、「新保育士養成講座 第12巻　保育者論」2015(全国社会福祉協議会)	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
発達心理学 （保育の心理学）		（講義・演習・実習）	岩崎 眞和
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

学習者は、実際の保育活動や、対人支援活動の中で生かせる様な知識を身につけることができる。特に、発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学ぶ。加えて、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得る。

［授業全体の内容の概要］

発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達的知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・発達心理学の定義、発達心理学を学ぶ意義、発達心理学の具体的知見、および発達心理学の実践的活用方法を示すことができる。特に、愛着理論について説明できる。
・発達心理学にかかわる基本的な用語を理解し、説明できる。特に乳幼児期の発達段階について詳細に分類し、それぞれの時期の特徴について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
１，２　子どもの発達の理解とその意義
３，４　子どもの発達と環境
５，６　発達観、子ども観と保育観
７，８　保育実践の評価
９，10　社会情動的発達①　自己と感情
11，12　社会情動的発達②　他者理解、他者とのかかわり
13，14　身体的機能と運動機能の発達
15，16　認知の発達①　認識の基礎
17，18　認知の発達②　数と形
19，20　認知の発達③　言葉と文字
21，22　乳幼児期の学びにかかわる理論
23，24　乳幼児期の学びの過程と特性①　認知的学び
25，26　乳幼児期の学びの過程と特性②　社会情動的学び
27，28　乳幼児期の学びをさせる保育
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］		（試験やレポートの評価基準など） レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する	
実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの発達と家庭支援 （子ども家庭支援の心理学）		（講義・演習・実習）	中塚良子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （2単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。

［授業全体の内容の概要］

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・乳幼児期から老年期における発達について理解する。
・家族・家庭の意義とその機能について理解する。
・子育て家庭に関する現状と課題について理解する。
・子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。
・子どもの精神保健とその課題について理解する。
・レポート学習した内容の総括として、子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について習得する。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
１，２　乳児期の発達
３，４　幼児期の発達
５，６　学童期の発達
７，８　青年期・成人期の発達
９，10　中年期・老年期の発達
11，12　家族・家庭の意義と機能
13，14　親子関係・家族関係の理解
15，16　子育ての経験と親としての育ち
17，18　子育てを取り巻く社会的状況
19，20　ライフコースと仕事・子育て
21，22　多様な家庭とその理解
23，24　特別な配慮を要する家庭
25，26　子どもの生活・生育環境とその影響
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］

「新基本保育シリーズ⑨子ども家庭支援の心理学」（中央法規）、「保育所保育指針解説書」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）、「子ども家庭支援の心理学」白川佳子・福丸由佳編集（中央法規）

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

レポート 50%　　最終試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育内容総論 （保育内容総論）		（講義・演習・実習）	中塚良子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に捉え、その指導法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育内容総論では、領域別の授業で学ぶ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

「遊び」の発達や意義を中心に、5領域を総合的に扱い、総合的な保育指導方法の習得を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　保育の全体的構造①　育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

3，4　保育の全体的構造②　領域の考え方と乳児保育

5，6　保育内容の歴史的変遷①　変遷にみる特徴

7，8　保育内容の歴史的変遷②　変遷にみる課題

9，10　養護と教育の一体的展開①　養護的なかかわりと教育的なかかわり

11，12　乳幼児期にふさわしい生活と保育内容①　乳幼児にとっての園行事の意味と在り方

13，14　乳幼児期にふさわしい生活と保育内容②　保幼小の円滑な連携

15，16　生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開①　環境を通して行う保育

17，18　生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開②　遊びによる総合的な保育

19，20　全体的な計画の作成と指導計画の作成①　全体的な計画の作成と振り返り方法

21，22　全体的な計画の作成と指導計画の作成②　指導計画の作成手順と配慮

23，24　保育の評価と保育の記録①　幼児理解に基づく評価

25，26　保育の評価と保育の記録②　観察記録を書く意味と幼児理解

27，28　保育内容の現代的課題について（子育て支援、多文化共生保育）

29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「保育内容総論」（豊岡短期大学テキスト）、幼稚園教育要領、保育所保育指針他、適宜プリントを配布する。	（試験やレポートの評価基準など） 出席状況、授業態度、講義時の小レポート、レポート、科目試験（60点以上で合格）を総合して評価する。

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
乳幼児保育Ⅰ （乳児保育Ⅰ）		（講義・演習・実習）	佐竹 直子
授業回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 (2単位)	こども保育総合科／こども保育幼稚園科 1年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

・乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷及び背景と制度について理解する。
・保育所、家庭的保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
・乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

[授業全体の内容の概要]

乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・乳幼児保育について、発達段階ごとの特徴と具体的な援助について理解できる。
・乳幼児の発達の法則、発達的特徴、及び乳幼児の援助について具体的に理解できる。
・乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１，２　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
３，４　乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
５，６　保育所における乳児保育
７，８　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
９，10　家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
11，12　３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
13，14　３歳未満児の生活と環境
15，16　３歳未満児の遊びと環境
17，18　３歳以上児の保育に移行する時期の保育
19，20　３歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり
21，22　３歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮
23，24　乳児保育の計画・記録・評価とその意義
25，26　職員間の連携・協働、保護者との連携・協働
27，28　自治体や地域の関係機関等との連携・協働
29，30　授業全体のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「新基本保育シリーズ⑮乳児保育Ⅰ・Ⅱ」(中央法規)、 「保育所保育指針解説」最新版(フレーベル館)、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版(フレーベル館)	(試験やレポートの評価基準など) レポート　50%　　試験　50% 幼稚園・保育園にて11年勤務

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅰ（保育所） （保育実習Ⅰ）		（講義・演習・実習）	平澤一郎 宮島純恵 三河覚子
授業回数	時間数（単位数） 80時間 （4単位のうち2単位分）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

実際に保育所での実習を行う中で、授業で学んだ各種理論を実際の保育の中で活用していく。また、各種実技についても実際に子どもの前で実施してみることで、保育士として働く上での知見を得ることをねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

保育所での実習を通して、具体的には以下のことを学んでいく
1. 保育所の役割と機能
・保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
・保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
・子どもの観察とその記録による理解
・子どもの発達過程の理解
・子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
・保育の計画に基づく保育内容
・子どもの発達過程に応じた保育内容
・子どもの生活や遊びと保育環境
・子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
・全体的な計画と指導計画及び評価の理解
・記録に基づく省察、自己評価
5. 専門職としての保育所保育士の役割と職業倫理
・保育士の業務内容
・職員間の役割分担や連携、協働
・保育所保育士の役割と職業倫理

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
3. 既習の教科目（特に、保育原理・発達心理学・保育内容）の内容を踏まえ、
　子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価とうについて具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

［使用テキスト・参考文献］		［単位認定の方法及び基準］	
「新基本保育シリーズ⑳保育実習」（中央法規）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）		（試験やレポートの評価基準など） 実習先での評価、実習簿、実習事後レポート、実習報告会の内容を総合的に判断する	
実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅰ（施設） （ 保 育 実 習 Ⅰ ）		（ 講義 ・ 演習 ・実習 ）	三河覚子 宮島純恵 平澤一郎
授業回数	時間数（単位数） 80時間 （4単位のうち2単位分）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

実際に児童福祉施設等での実習を行う中で、施設について理解を深めると共に、授業で学んだ各種理論と実際の業務と結びつけていく。また、各種実技についても実際に子どもの前で実施してみることで、保育士として働く上での知見を得ることをねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

児童福祉施設等での実習を通して、具体的には以下のことを学んでいく
1. 施設の役割と機能
・施設における子ども（利用者）の生活と施設保育士の援助や関わり
・施設の役割と機能の実際
2. 施設における子ども（利用者）の理解
・子ども（利用者）の観察とその記録
・個々の状態に応じた援助や関わり
3. 施設における子ども（利用者）の生活と環境
・計画に基づく活動や援助
・子どもの心身の状態に応じた生活と対応
・子どもの活動と環境
・健康管理、安全対策の理解
4. 施設における計画と記録
・支援計画の理解と活用
・記録に基づく省察、自己評価
5. 専門職としての施設保育士の役割と職業倫理
・施設保育士の業務内容
・職員間の役割分担や他専門職との連携
・施設保育士の役割と職業倫理

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
3. 既習の教科目（特に、子ども家庭福祉・社会的養護Ⅰ・保育内容）の内容を踏まえ、
　子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価とうについて具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑳保育実習」（中央法規）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 実習先での評価、実習簿、実習事後レポート、実習報告会の内容を総合的に判断する

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅰ （保育実習指導Ⅰ）		（講義・演習・実習）	宮島純恵 三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 （2単位）	1年生・後期 2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育実習の意義・目的を理解する。
・保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。
・実習の流れと実習の心得を学ぶ。
・実習の目標・実習課題を学ぶ。
・事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。

［授業全体の内容の概要］

実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。（演習）保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。
・実習の流れ・心得を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 2	実習の意義・目的を理解する
3 4	社会人のマナー　ほうれんそう（報告・連絡・相談）の重要性
5 6	緊急時の対応（怪我・地震・火災等）、事故予防について
7 8	実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）とは何か
9 10	実習日誌の書き方①
11 12	プライバシーの保護と守秘義務
13 14	保育技術の利用　絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等
15 16	実習日誌の書き方①
17 18	保育所の現状と課題
19 20	保育指導案の立て方①
21 22	保育所の職場構成と連携
23 24	乳幼児の年齢別発達の特徴
25 26	実習日誌の書き方②
27 28	保育指導案の立て方②
29 30	新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の再確認
31 32	実習直前の確認事項・トラブルシューティング
33 34	事後学習①　実習を振り返り
35 36	事後学習②　自己評価と実習の反省
37 38	事後学習③　実習技術の再確認（手遊び、絵本等）
39 40	事後学習④　保育士業務の確認
41 42	事後学習⑤　実習日誌・指導案の振り返り
43 44	事後学習⑥　次回の実習に向けての目標設定
45 46	児童福祉施設の種別
47 48	児童福祉施設の特徴・職員配置・業務内容（調べ学習）
49 50	児童福祉施設について調べ学習の発表
51 52	児童福祉施設の他職種および他機関との連携の仕方
53 54	社会的養護の原理・原則および支援について
55 56	基礎介護技術①　（車椅子の使い方）
57 58	基礎介護技術②　（食事介助、着替え介助等）
59 60	次年度の実習に向けての目標設定（再度見直し）

［使用テキスト・参考文献］

「新基本保育シリーズ⑳保育実習」（中央法規）、
「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
レポート

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育心理学		（講義・演習・実習）	岩﨑眞和
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （2単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

教育心理学は、教育ととくに乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動ついて学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。

［授業全体の内容の概要］

教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達的特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・教育心理学における動機づけのしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を説明することができる。

・教育心理学における基礎的知識を理解し、概説することができる。

・教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　教育心理学を学ぶ意義
３，４　発達の考え方とその理解
５，６　学習の仕組み
７，８　主体的な学習を支える「やる気」
９，10　集団での学習とその評価
11，12　動機付けからみる発見学習の仕組み
13，14　教育心理学に基づく保育実践
15，16　発達課題に応じたかかわり
17，18　子どもから大人への思考様式の変化
19，20　学びを支える記憶
21，22　子どもの学びの姿
23，24　子どものやる気を引き出す指導の在り方
25，26　子どもの遊びの重要性
27，28　子どもと道徳

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「教育心理学」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
言葉とこどもの文化		（講義・演習・実習）	佐竹直子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	15時間（1単位）	1年生・前期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　ことばの機能と言葉の発達　人間とことば、幼児とことば
2　ことばの機能と言葉の発達　乳幼児期のことばの発達と保育者の役割
3　領域〈言葉〉のねらい及び内容①　保育所保育指針
4　領域〈言葉〉のねらい及び内容②　幼稚園教育要領
5　ことばを育てる児童文化財①　児童文化財とは
6　ことばを育てる児童文化財②　絵本
7　ことばを育てる児童文化財②　紙芝居
8　ことばを育てる児童文化財②　おはなし
9　ことばを育てる児童文化財③　ベープサート
10　ことばを育てる児童文化財③　シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）
11　ことばを育てる児童文化財④　ことばに対する感覚を養う児童文化財
12　ことばを育てる児童文化財④　わらべうたあそび、ことばあそび
13　ことばを育む教材　ことばを育む教材の範囲
14　ことばを育む教材　ことばを育む教材研究
１５　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］

「言葉とこどもの文化」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
人間関係論		（講義・演習・実習）	中塚良子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	15時間（1単位）	1年生・前期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。

［授業全体の内容の概要］

領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学基盤について理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　領域「人間関係」　ねらいと内容
2　領域「人間関係」　領域の相補性（保育活動の総合性とは）
3　人間関係と取り巻く社会環境①　少子高齢化
4　人間関係と取り巻く社会環境①　家族の変化
5　人間関係と取り巻く社会環境②　身近な環境の変容
6　人間関係と取り巻く社会環境②　メディアの変化
7　人間関係をつむぐこどもの発達　規範意識と道徳性の芽生え（育ち）
8　人間関係をつむぐこどもの発達　ルール、決まり事の意味と意義
9　人間関係をつむぐこどもの発達　自立心、協同性の芽生え（育ち）
10　人間関係をつむぐこどもの発達　自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）
11　人間関係とこどもの遊び①　遊びの中で育つ乳児の人間関係
12　人間関係とこどもの遊び②　遊びの中で育つ幼児の人間関係
13　人間関係とこどもの生活①　家庭とのかかわりとこどもの発達
14　人間関係とこどもの生活②　地域とのかかわりとこどもの発達
15　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］

「人間関係論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
音楽技術Ⅰ （保育の内容・方法に関する科目）		（講義・演習・実習）	土田智子 金山志保
授業回数 120回	時間数（単位数） 120時間 （4単位）	配当学年・時期 1年生・通年	必修・選択 選択
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育現場で必要とされる音楽技術（主にピアノ）を身に付ける。
・日常的に音楽に触れることを習慣化する

［授業全体の内容の概要］

ピアノを中心とした基本的な音楽技術の習得を目指す。授業の中では、学生個々のピアノスキルに合わせて個別指導を行い、ピアノスキル向上を目指していく。1年次では主に生活の歌についての弾き歌いができるようにしていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・各自のスキルに合わせてのピアノ伴奏ができるようになる。
・保育現場での生活の歌の弾き歌いがある程度できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
1　前期授業オリエンテーション
2　基本の伴奏、楽譜の読み方①
3　基本の伴奏、楽譜の読み方②
4　基本の伴奏、楽譜の読み方③
5～30　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
31，32　中間試験（到達度チェックテスト）
33～58　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
59，60　前期試験（到達度チェックテスト）
61　後期授業オリエンテーション
62～90　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
91，92　中間試験（到達度チェックテスト）
93～118　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
119，120　後期試験（到達度チェックテスト）

［使用テキスト・参考文献］

「こどもの歌ベストテン」㈱ドレミ楽譜出版社
「音楽表現論」（豊岡短期大学テキスト）
「こどもの指導法 音楽表現」（豊岡短期大学テキスト）

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

授業態度（中間試験の内容を含む）　30%
前期試験　30%
後期試験　40%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもと造形 （保育内容の理解と方法）		（講義・演習・実習）	森野　輝江子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・後期	必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、あわせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして沿い工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要となる知識や技術を身に付ける。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。
・乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。
・乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。
・乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について
　①えがく領域　②つくる領域　③造形あそびの領域を通して体験的に習得する。
　また、教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　幼児造形教育の受容性と研究の視点について
３，４　幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について
５，６　えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助）
７，８　えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における実際）
９，10　つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助）
11，12　つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における実際）
13，14　造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助）
15，16　造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける実際）
17，18　こどもの発達段階における表現の特徴と指導・援助について
19，20　えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）
21，22　教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）
23，24　教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）
25，26　教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）
29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「造形表現論」（豊岡短期大学テキスト） 「色彩　造形の楽しさ」日本色研事業株式会社	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度 10%　課題 50%　試験 40%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所等での子どもへの造形指導10年以上

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
音楽表現論		（講義・演習・実習）	三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	15時間（1単位）	1年生・後期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。

［授業全体の内容の概要］

子どもが表現する事の楽しさを生み出す課程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、創造力を育むための具体的指導法の習得と音楽的技能を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識

2　音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解

3　「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する課程の理解イメージを表現するための音や音階の理解

4　日本のこどもの歌と歴史的背景の理解

5　時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析

6　領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解

7　身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践

8　保育実践における豊かな表現を引き出す援助（手法）のあり方についての理解

9　幼児用楽器のと取扱いと正しい演奏法の理解と実践

１０　部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案

１１　身近な自然や身の回りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践

１２　乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解

１３　ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音（コード）で表現する方法と理解と実践

１４　家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ

１５　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］（試験やレポートの評価基準など）
「音楽表現論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
造形表現論		（講義・演習・実習）	森野輝江子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間（1単位）	1年生・前期	選択
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。

［授業全体の内容の概要］

幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本及び乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。また乳幼児の造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習

3，4　こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義

5，6　こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴

7，8　こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの指導、援助、評価

9，10　えがく活動における形態・色彩の理論　絵画技法

11，12　えがく活動における製作内容と材料・用具

13，14　つくる活動における技法と活用

15，16　つくる活動の素材（廃材）

17，18　つくる活動における製作内容と材料・用具

19，20　造形あそびにおける各種表現技法

21，22　造形あそびにおける製作内容と材料・用具

23，24　実践的な指導法の学習

25，26　情報機器及び教材の活用

27，28　美術の歴史的展開の概説

29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「造形表現論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など）

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所等での子どもへの造形指導10年以上

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもと体育		（講義・演習・実習）	佐藤政志
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。
2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達の関係を理解する。
3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。
4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。
5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。
6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　オリエンテーション（講義）　①自然での遊び（水遊び、雪遊び等）
3，4　オリエンテーション（講義）　②戸外、森などでの遊び
5，6　固定遊具の遊び　①すべり台、ジャングルジム
7，8　固定遊具の遊び　②ぶらんこ、シーソー
9，10　遊具を使った遊びⅠ　①小さいボール、柔らかいボール
11，12　遊具を使った遊びⅠ　②大きいボール、様々なボール
13，14　遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具）　①フープ、輪、ロープ
15，16　遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具）　②新聞紙、タオルなど
17，18　大型遊具を使った遊び　①マット、平均台、跳び箱運動
19，20　大型遊具を使った遊び　②複数遊具の組み合わせによる運動
21，22　サーキット遊び　①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び
23，24　サーキット遊び　②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び
25，26　身体の表現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない）　①鬼遊び、わらべ歌など（小身体活動）
27，28　身体の表現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない）　②ケンケンパー、馬跳びなど（大身体活動）

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など）
特になし	授業中の取り組み状況を見て評価する

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園、保育園、認定こども園での子どもへの指導歴約15年

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「人間関係」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	宮島純恵
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育者してどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。

［授業全体の内容の概要］

こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　領域「人間関係」 ねらいと内容及びその取扱い

3，4　領域「人間関係」 保育者としての役割

5，6　保育者としての環境作りと評価　こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む）

7，8　保育者としての環境作りと評価　保育構想と指導案（模擬保育）

9，10　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助①　対人意識、自己概念の発達

11，12　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助①　自己理解と他者理解を支える保育者の工夫

13，14　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助②　個と集団の育ちの姿

15，16　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助②　こどもの心の拠り所である保育者の工夫

17，18　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③　人とかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫

19，20　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③　集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫

21，22　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④　こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫

23，24　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④　こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点

25，26　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤　こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割

27，28　こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤　こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）

29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　10%　課題　40%　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「言葉」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	佐竹直子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

乳幼児期の言葉の発達過程を理解する。言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解する。

［授業全体の内容の概要］

乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言葉教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれあい等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができる。また、こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　幼児教育と言葉　言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方

3，4　幼児教育と言葉　領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり

5，6　乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価　領域「言葉」指導上の留意点と評価

7，8　乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価　0歳から5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み

9，10　言葉を豊かに育む活動（1）　言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法

11，12　言葉を豊かに育む活動（1）　わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育

13，14　言葉を豊かに育む活動（2）　言葉から文字へ、文字による環境

15，16　言葉を豊かに育む活動（2）　文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験

17，18　保育者と言葉のあり方　言葉の遅れや障がいをもつ障害児の捉え方と支援

19，20　保育者と言葉のあり方　外国のこどもとの対応

21，22　言葉を豊かに育む活動（3）　言語教材としての絵本の意義

23，24　言葉を豊かに育む活動（3）　絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成

25，26　言葉を豊かに育む活動（4）　絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について

27，28　言葉を豊かに育む活動（4）　絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育

29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など）
「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、 「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	受講態度　10%　課題　40%　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「リズム表現」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	三河覚子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 1年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも併せて修得する。

［授業全体の内容の概要］

領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効率的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通した感性や人間力の育成を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　領域「表現」についての基本的な考え方①
　古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察

3，4　領域「表現」についての基本的な考え方②
　領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解

5，6　基礎リズム①　歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点

7，8　基礎リズム②　幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解

9，10　基本動作①　幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践

11，12　基本動作②　日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践

13，14　タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解①
　童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振り付けの実践

15，16　タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解②　幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践

17，18　楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成①
　楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用

19，20　楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成②
　指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成

21，22　領域「表現」と小学校教材等のつながり　オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について

23，24　表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り

25，26　幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作

27，28　創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　10%　課題　30%　試験　60%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「造形表現」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	森野輝江子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本と乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。

［授業全体の内容の概要］

乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　幼稚園教育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習要領）

3，4　保育所保育指針における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習要領）

5，6　幼保連携型認定こども園　教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習要領）

7，8　造形教育の思想と指導法の推移

9，10　こどもの発達段階における表現の特徴

11，12　こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価

13，14　教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）

15，16　教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）

17，18　教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）

19，20　実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく）

21，22　実践的な指導法（模擬保育等）の学習（つくる）

23，24　実践的な指導法（模擬保育等）の学習（造形あそび）

25，26　えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）

27，28　情報機器及び教材の活用

29，30　まとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　10%　課題　50%　試験　40%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所等での子どもへの造形指導10年以上

参考様式14

授　　業　　概　　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「音楽表現」 （保育内容の理解と方法）		（講義・演習・実習）	尾崎　祐司
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・後期 2年生・前期、後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

領域「表現」は幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。
音楽表現活動の在り方や実践の方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。
また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、
より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解
2　表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践
3　乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解
4　表現活動における伴奏の方法と実践
5　映像視聴による身近にある音風景「自然の音」「身の回りの音」への気づきと表現方法
6　サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法
7　音の仕組み、「歌う」表現活動の理解
8　乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法
9　映像を活用した０、１、２歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践
10　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法
11　映像を活用した３、４、５歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践
12　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法
13　「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践
14　「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法
15　領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用
16　他の領域と関連した生活や行事などをテーマとした曲の理解と弾き歌いの実践
17　指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方
18　模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究
19　指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点
20　模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践

23　模擬保育「わらべうた・伝承あそびを楽しむ」の実践と指導案の討議
24　模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践
25　模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議
26　模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践
27　ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解
28　保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践
29, 30　小学校１年生、教材「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ、最終試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「音楽表現論」（豊岡短期大学テキスト） 「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、 「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　20%　課題　50%　試験　30%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習入門		（講義・演習・実習）	宮島純恵 三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育の現場を体験することで、保育者となることの意識をもつようになる。
・保育の学び（理論）と実践のつながりを確認し、省察する姿勢をもつようになる。

［授業全体の内容の概要］

本授業の中では、保育実習Ⅰを始める前段階の入門的な科目として位置付けている。入学したばかりの学生が持っている保育士像を確認しながら、実習を通して自分の目指す保育士に近づけるような授業展開をしていく。まずは、近隣の子育て支援センターでの見学実習を行い、夏には近隣の認定こども園にて1日実習を行うことで、後期の授業や保育実習Ⅰへと繋げていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育者になるための意識をもつ
・実習と保育士養成の各科目についての繋がりを意識するようになる
・保育士の専門性について考えるきっかけを得る

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1	「保育者のイメージ」の確認	16	記録の書き方の練習②
2	「保育者になる」ために何を学ぶか	17	子どもの「発達」を学ぶ①（調べ学習
3	資格取得までの実習の流れ	18	子どもの「発達」を学ぶ②（調べ学習）
4	見学先施設の事前学習	19	子どもの「発達」　調べ学習の発表①
5	保育者の専門性①　専門知識とは	20	子どもの「発達」　調べ学習の発表②
6	施設見学のための準備	21	保育者の専門性②　専門技術とは
7	子育て支援施設の見学（見学実習）	22	実習生としての行動・言葉遣い①
8	子育て支援施設の見学（見学実習）	23	実習生として、現場に入る心構え
9	施設見学の振り返り	24	実習生として学ぶ姿勢とは
10	子どもとの関わり方	25	記録の書き方の練習③　発達のまとめ
11	子どもの「発達」を捉える視点①	26	実習前の確認事項
12	子どもの「発達」を捉える視点②	27	記録の書き方の練習①　子どもの様子を捉える
13	保育園の日課①	28	記録の書き方の練習②　流れに沿って書く
14	保育園の日課②（実習園の概要も含む）	29	事後指導①　記録の作成（グループ作業）
15	記録の書き方の練習①	30	事後指導②実習での学びのまとめ（グループ作業）

［使用テキスト・参考文献］

「幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド」（わかば社）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
事前学習 20%　実習評価 50%　事後学習 30%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
スタディスキル演習		(講義 ・ 演習 ・実習)	平澤一郎
授業回数 30回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年生・通年	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

高校から専門学校に進学することで一番変わることは「勉強の方法」である。
この授業では、高校までとは異なる専門学校独自の勉強の方法を見に付けることを目的としている。

[授業全体の内容の概要]

高校までのマニュアル的学習とは違い、専門学校(特に保育士養成課程)においては、自ら考え、レポートなど文章として現すことが求められる。思考力の訓練と共に、自ら勉強できるようにすると共に、人に伝わる文章の作成方法などについても細かく指導を行っていく。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・レポート作成の基礎を学び、レポートを作成することができる。
・主語と述語、言葉のつながりなどを理解し、基礎国語力を身につけ、
　文法的に間違いのない文章を書くことができる。
・感想(見て、調べて感じたこと)ではなく、考察(調査した上で分かったこと、
　考えたこと、自分の意見)を述べることができる。
・考察を文体や表現に注意して書くことができる。
・主語と述語、言葉のつながりなどを理解し、基礎国語力を身につけ、
　文法的に間違いのない文章を書くことができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1	オリエンテーション(偏愛マップ、他己紹介)	16	オリエンテーション
2	レポートの基本構成①	17	レポートの構成と考察
3	レポートの基本構成②	18	「感想」と「考察」の違い
4	要約の仕方①	19	自分の意見を出してみよう
5	要約の仕方②　図書館の使い方	20	「考察」してみよう①
6	引用、参考文献を入れよう①	21	「考察」してみよう②
7	引用、参考文献を入れよう②	22	レポート作成演習①
8	言葉のつながりを考えよう	23	レポート作成演習②
9	助詞と助動詞を把握しよう	24	レポート作成演習③
10	接続詞と指示語を把握しよう	25	文書読解演習①
11	正確な文章を書いてみよう	26	文書読解演習②
12	正確な文章を書いてみよう	27	意見文作成演習①
13	文の要点を捉えよう	28	意見文作成演習②
15	前期のまとめ	30	後期のまとめ、試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 毎授業への取り組み50%　試験50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育基礎演習Ⅰ		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間（1単位）	1年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育者として求められる知識の他に「読み」「書き」「話す」力の育成を図る。

［授業全体の内容の概要］

毎週課題テキストの中から、該当する部分を読み、レジュメを作成してくる。
そのレジュメを基にし、毎回テーマに沿ってのディスカッションを行っていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1年次のこの科目ではグループディスカッションを通して、
他の人の「聴くこと」「自分の意見を話すこと」ができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　授業の進め方などの説明、各種連絡
2　グループ活動、ディスカッションの練習
3　「本当は怖い小学1年生」第1章　ディスカッション
4　「本当は怖い小学1年生」第2章　ディスカッション
5　「本当は怖い小学1年生」第3章　ディスカッション
6　「本当は怖い小学1年生」第4章　ディスカッション
7　「本当は怖い小学1年生」第5章　ディスカッション
8　担当者決め、進め方の確認
9　「食育の力」　第1章、第2章　ディスカッション
10　「食育の力」　第3章、第4章　ディスカッション
11　「食育の力」　第5章①　ディスカッション
12　「食育の力」　第5章②　ディスカッション
13　「食育の力」　第6章　ディスカッション
14　「食育の力」　第7章　ディスカッション
15　前期授業のまとめ
16　前後半の担当決め、授業の概要説明
17　「子どもが育つ条件」第1章　ディスカッション
18　「子どもが育つ条件」第2章　ディスカッション
19　「子どもが育つ条件」第3章　ディスカッション
20　「子どもが育つ条件」第4章　ディスカッション
21　「子どもが育つ条件」第5章　ディスカッション
22　「子どもが育つ条件」第6章　ディスカッション
23　「子育て支援の危機」第1章①　ディスカッション
24　「子育て支援の危機」第1章②　ディスカッション
25　「子育て支援の危機」第2章　ディスカッション
26　「子育て支援の危機」第3章　ディスカッション
27　「子育て支援の危機」第4章　ディスカッション
28　「子育て支援の危機」第5章①　ディスカッション
29　「子育て支援の危機」第5章②　ディスカッション
30　授業全体のまとめ

［使用テキスト・参考文献］

汐見稔幸（2013）「本当は怖い小学1年生」ポプラ新書、高橋美保（2009）「食育の力」創成社、柏木惠子(2008)「子どもが育つ条件−家族心理学から考える」岩波新書、前原寛(2008)「子育て支援の危機」創成社新書

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

毎回提出のレジュメ　25%
授業中での発言など取り組み状況 25%
最終レポート 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育総合演習Ⅰ		（講義・演習・実習）	平澤一郎　三河覚子 宮島純恵
授業回数 60回	時間数（単位数） 60時間 （2単位）	配当学年・時期 1年生・通年	必修・選択 必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

1～3年全員合同クラスを3グループ作り、授業展開を行っていく。
異年齢の学年との交流を活かし、学年間で「学び合う」コミュニティの創造を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

毎授業は学生主体の模擬保育を中心に行われ、実習後には実習報告会を行うなどし、上の学年の知識と技術を下の学年へと継承していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1年次のこの授業の中では、主に上級生の模擬保育に対して、子ども役を行うことと上級生の保育を実際に体験していくことで基礎力を得ていくことを到達目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

※この授業は、3年制学科「こども医療保育科」と合同で実施する

コマ数

1　授業オリエンテーション　クラス分け
2　各グループごとに自己紹介、アイスブレーク
3　模擬保育　3年生①
4　模擬保育　3年生②
5　模擬保育　3年生③
6　模擬保育　3年生④
7　模擬保育　3年生⑤
8　模擬保育　3年生⑥
9　模擬保育　2年生①
10　模擬保育　2年生②
11　模擬保育　2年生③
12　模擬保育　2年生④
13　模擬保育　2年生⑤
14　模擬保育　2年生⑥
15　3年生　実習報告会①
16　3年生　実習報告会②
17　模擬保育　2年生⑦
18　模擬保育　2年生⑧
19　模擬保育　2年生⑨
21　模擬保育　3年生⑦
22　模擬保育　3年生⑧
23　模擬保育　3年生⑨
24　模擬保育　3年生⑩
25　2年生　実習報告会①
26　2年生　実習報告会②
27　1年生　絵本読み聞かせ①
28　1年生　絵本読み聞かせ②
29　1年生　絵本読み聞かせ③
30　1年生　絵本読み聞かせ④
31　授業オリエンテーション　クラス分け
32　各グループごとに自己紹介、アイスブレーク
33　模擬保育　3年生⑪
34　模擬保育　3年生⑫
35　模擬保育　2年生⑪
36　模擬保育　2年生⑫
37　模擬保育　1年生①
38　模擬保育　1年生②
39　模擬保育　1年生③
40　模擬保育　1年生④
41　模擬保育　1年生⑤
42　模擬保育　1年生⑥
43　3年生　実習報告会③
44　3年生　実習報告会④
45　2年生　実習報告会③
46　2年生　実習報告会④
47　模擬保育　1年生⑦
48　模擬保育　1年生⑧
49　模擬保育　3年生⑬
51　模擬保育　2年生⑬
52　模擬保育　2年生⑭
53　1年生　実習報告会①
54　1年生　実習報告会②
55　模擬保育　3年生⑮
56　模擬保育　3年生⑯
57　模擬保育　2年生⑮
58　模擬保育　2年生⑯
59　模擬保育　2年生⑰
60　授業のまとめ、振り返り

［使用テキスト・参考文献］

特になし

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

出席　50%　　模擬保育での学生評価　25%%
模擬保育での教員評価　25%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育実習事前事後指導		（講義・演習・実習）	熊谷祐子
授業回数 1年次：10回 2年次：10回	時間数（単位数） 20時間 （1単位）	配当学年・時期 （事前指導）1年生・後期 （事後指導）2年生・後期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育実習の意義を理解し、実習に必要な基本的態度を身につける。

［授業全体の内容の概要］

・幼稚園実習に備えて、教育実習についての知識・技能・態度・心構えを習得する。
・保育指導案の作成、実習記録の記入の方法を学ぶ。
・模擬保育を通して保育実技の技能習得をする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・幼稚園実習に備えて、教育実習についての知識・技能・態度・心構えを習得する。
・グループでの指導案作成を通し、個々で指導案が作成できるようになる。
・幼稚園での実習の意義を理解し、幼稚園教諭の業務と役割について理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

＜自習事前指導＞：1年次	＜自習事後指導＞：2年次
1　教育実習の目的・意義	11　実習の振り返り、実習報告
2　教育実習全体の流れ、実習内容	12　実習自己評価の作成
3　幼稚園の基礎知識、幼稚園教諭の資質と役割	13　実習から学んだ、幼稚園の特徴①
4　実習記録の書き方、指導案の意義と目的	14　実習から学んだ、幼稚園の特徴②
5　指導案の書き方と教材研究	15　部分・責任実習の評価①
6　保育実技と技能習得	16　部分・責任実習の評価②
7　グループによる年齢別指導案作成練習	17　3歳児以上児の保育の特徴①
8　グループによる模擬保育①	18　3歳児以上児の保育の特徴②
9　グループによる模擬保育②	19　幼稚園教諭免許制度（免許更新、第1種への申請）
10　模擬保育事後の自己評価	20　全体のまとめ

［使用テキスト・参考文献］

「保育実習指導」（豊岡短期大学）、「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）、「幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）

［単位認定の方法及び基準］

レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（レポート評価はルーブリック評価を用い行う）

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　　業　　概　　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
就職実務Ⅰ		（講義・演習・実習）	三河覚子 柴田淳
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	1年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・就職活動の概要について理解する
・保育だけでなく業界全体の動向について理解する
・就職活動への準備を行う

［授業全体の内容の概要］

本授業では、2年次での就職活動を開始するにあたっての基礎知識を学ぶ。業界全体のマナーから、就職活動の流れや求人票の読み方などを学ぶことで、スムーズに就職活動への移れるようにしていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・就職活動を行うにあたり、自己を客観的に捉えることができる
・就職活動を行うにあたり、社会人としての基本的なマナーを身に付ける

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
1,2　就職活動の準備とスタート①（就職活動の心構え）
3,4　就職活動の準備とスタート②（就職活動の心構え）
5,6　自分と職業を理解する①（ライフスタイルを考える、自己分析から自己PRを考える）
7,8　自分と職業を理解する②（職業を知る　仕事と関連資格）
9,10　自分と職業を理解する③（志望動機を作成する）
11,12 情報収集・企業研究①（情報収集のポイント）
13,14　情報収集・企業研究②（就職課の利用方法）
15,16　情報収集・企業研究③（インターネットを使っての情報収集）
17,18　情報収集・企業研究④（資料請求の方法、ガイダンスへの参加）
19,20　情報収集・企業研究⑤（求人票の見方）
21,22　情報収集・企業研究⑥（就職試験の応募方法、準備）
23,24　就職試験対策①（就職試験のマナー、準備物など）
25,26　就職試験対策②（面接試験対策）
27,28　就職試験対策③（筆記試験対策）
29,30　一般常識（筆記）試験、模擬面接試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など）
㈱ウィネット就職研究会編「SUCCESS」ウィネット	一般常識（筆記）試験　50%　　模擬面接試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会福祉論 （　社　会　福　祉　）		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・社会福祉の対象となる「日常生活に困っている人」を理解する
・社会福祉の制度を理解する　・困っている人々を支援する方法を理解する

［授業全体の内容の概要］

社会福祉の分野は多岐に渡る。本授業内では子どもだけではなく、障害児者、高齢者、公的扶助など社会福祉の主な分野についての概要を学ぶと共に、社会福祉の価値や見方、制度や機関などの社会資源について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育士として子どもだけではなく、家族全体を支援する視点を持つことができる
・家族を取り巻く社会全体の状況について理解を深めることができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　社会福祉の理念と歴史的変遷
３，４　子ども家庭支援と社会福祉
５，６　社会福祉の制度と法体系
７，８　社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
９，10　社会福祉の専門職
11，12　社会保障および関連制度の概要
13，14　相談援助の理論
15，16　相談援助の意義と機能
17，18　相談援助の対象と過程
19，20　相談援助の方法と技術
21，22　社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
23，24　少子高齢化社会における子育て支援
25，26　共生社会の実現と障害者施策
27，28　在宅福祉・地域福祉の推進
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ④社会福祉」（中央法規）、社会福祉の動向編集委員会編集「社会福祉の動向」（中央法規）、社会保障入門編集委員会編集「社会保障入門」（中央法規）	（試験やレポートの評価基準など） レポート 50%　試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所、子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
こども家庭支援論 （子ども家庭支援論）		（講義・演習・実習）	佐竹直子
授業回数 30回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。

[授業全体の内容の概要]

子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭に対する支援の特性を理解する。
・レポート学習した内容の総括として、様々な子育て家庭支援に応じた多様な支援の展開と連携、子ども家庭支援の現状と課題について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数
１，２　子ども家庭支援の意義と必要性
３，４　子ども家庭支援の目的と機能
５，６　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
７，８　子育て家庭の福祉を図るための社会資源
９，10　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
11，12　子どもの育ちの喜びの共有
13，14　保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
15，16　保育士に求められる基本的態度
17，18　家庭の状況に応じた支援
19，20　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
21，22　子ども家庭支援の内容と対象
23，24　保育所等を利用する子どもの家庭への支援
25，26　地域の子育て家庭への支援
27，28　要保護児童およびその家庭に対する支援
29，30　授業全体のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「新基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論」(中央法規)、「保育所保育指針解説書」最新版(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版(フレーベル館)、「＜新版＞家庭支援論」コンパクト版 保育者養成シリーズ(一藝社)、「実践　家庭支援論」(ななみ書房)		(試験やレポートの評価基準など) レポート 50%　試験 50%	
実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの理解と援助 （子どもの理解と援助）		（講義・演習・実習）	中塚良子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 2年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

［授業全体の内容の概要］

保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。子ども個人への視点から集団・保育者との関わり、保護者との関わりの視点や特別な配慮を必要とする子どもの理解までも含めて学んでいく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

子ども理解と援助について、授業計画の各項目について理解し、それを踏まえて将来の実践にどのように活かしたいか考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　保育における子ども理解の意義

３，４　子どもに対するかかわりと共感的理解

５，６　子どもの生活や遊び

７，８　保育の人的環境としての保育者と子どもの発達

９，10　子ども相互のかかわりと関係づくり

11，12　集団における経験と育ち

13，14　発達における葛藤やつまずき

15，16　保育の環境の理解と構成

17，18　環境の変化や移行

19，20　子ども理解のための観察・記録と省察・評価

21，22　子ども理解のための職員間の対話

23，24　子ども理解のための保護者との情報共有

25，26　発達の課題に応じた援助とかかわり

27，28　特別な配慮を要する子どもの理解と援助

29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助」（中央法規）、「保育所保育指針解説書」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート 50％　最終試験 50％

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの保健 （子どもの保健）		（講義・演習・実習）	鹿間久美子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

子どもの健康の意味、身体発育・生理、運動、精神機能の発達と保健について理解する

［授業全体の内容の概要］

子どもは常に発育・発達している存在です。特に乳幼児期は病気に対する抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さもあり、保育の現場では健康状態、発達状態を把握し適切な判断に基づく対応が求められます。こどもの健康について理解するとともに保育者としても自分の心身の健康について理解していきましょう。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

子どもの発育・発達、健康状態の把握と主な病気の特徴を理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
３，４　健康の概念と健康指標
５，６　現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
７，８　地域における保健活動と子ども虐待防止
９，10　身体発育および運動機能の発達と保健
11，12　生理機能の発達と保健
13，14　健康状態の観察および心身の不調等の早期発見
15，16　発育・発達の把握と健康診断
17，18　保護者との情報共有
19，20　主な疾病の特徴①　新生児の病気、先天性の病気
21，22　主な疾病の特徴②　循環器、呼吸器、血液、消化器の病気
23，24　主な疾病の特徴③　アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気
25，26　主な疾病の特徴④　脳の病気、その他の病気、感染症
27，28　子どもの疾病の予防と適切な対応
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑪子どもの保健」（中央法規）、「新保育士養成講座 第7巻 子どもの保健」（全国社会福祉協議会）	（試験やレポートの評価基準など） レポート、試験（60％以上で合格）

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの食と栄養 （子どもの食と栄養）		（講義・演習・実習）	松丸真樹
授業回数 60回	時間数（単位数） 60時間 （2単位）	配当学年・時期 2年生・通年	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

栄養の基本的な知識と各段階の発達・発育を理解し食事展開、援助、実習を通して、実践力を養うことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

健全な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学び理解する。子どもの発育・発達と食生活の関連性や食育について理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

保育者として必要な栄養についての基礎知識や、食生活に関する諸問題について理解する。食育のための環境を地域社会や文化とのかかわりの中で理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　2 子どもの健康と食生活の意義
3　4 朝食欠食の原因と食生活への影響
5　6 栄養の基本
7　8 栄養素の種類とはたらき
9 10 栄養素についてのポスター作製
11 12 日本人の食生活の目標
13 14 自分の食生活を見直してみる
15 16 献立作成・調理の基本
17 18 1日分の献立の作成
19 20 乳児期の授乳の意義と食生活
21 22 調乳の方法と実際
23 24 乳児期の離乳の意義と食生活
25 26 離乳食の作成
27 28　幼児期の心身の発達と食生活
29 30 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
31 32　保育における食育の意義・目的と基本的考え方
33 34 幼児家庭における献立作成演習
35 36 調理実習①　3～5歳向け食事の作成
37 38　食育の内容と計画および評価
39 40 地域や家庭と連携した食育の展開
41 42 食育を行うための地域資源
43 44 子ども食堂の運営と実際
45 46 地域の郷土料理を調べる
47 48 調理実習②　地域の郷土料理の作成
49 50 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
51 52 年間の食育計画の作成
53 54 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①
55 56 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②
57 58 アレルギー疾患生活管理指導票の作成と緊急時対応
59 60 授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］

「新基本保育シリーズ⑫子どもの食と栄養」（中央法規）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
レポート 50%　　最終試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	高校にて家庭科教諭約4年、各種栄養講座講師経験

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育課程論 （保育の計画と評価）		（講義・演習・実習）	柴田淳
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （2単位）	配当学年・時期 2年生・前期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

1. 教育・保育カリキュラムの基礎理論と変遷を理解する
2. 教育・保育カリキュラムの編成と実際を学ぶ
3. 教育・保育カリキュラムの諸問題について考える

［授業全体の内容の概要］

教育・保育カリキュラムの基礎理論と変遷を理解し、教育・保育カリキュラムを作成するにあたって必要な知識や視点を学んでもらいます。また、教育・保育カリキュラムをめぐる諸問題について学びながら、今求められている教育・保育カリキュラムについて考えていきます。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 教育・保育カリキュラムの基礎理論と変遷を説明できる
2. 教育・保育カリキュラムを自らで編成することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　全体的な計画編成の基本的な考え方、意義と必要性
３，４　カリキュラムの基礎理論
５，６　日本における全体的な計画・各国の教育課程の変遷
７，８　時代の変化に対応した幼稚園の全体的な計画の在り方、編成と評価
９，10　全体的な計画の法と行政
11，12　学習指導要領の変遷とその特色
13，14　園生活と長期・短期の指導計画
15，16　全体的な計画編成の実際
17，18　保育の基本と実践（記録及び省察による教育・保育の質向上）
19，20　学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム
21，22　明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史
23，24　危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性
25，26　幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷
27，28　信頼される園づくりと学校評議員制度
29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「教育課程論」（豊岡短期大学テキスト）、「保育課程・教育課程総論」2016（ミネルヴァ書房）	（試験やレポートの評価基準など） レポート、科目試験の結果を総合して評価する。

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
乳幼児保育Ⅱ （ 乳 児 保 育 Ⅱ ）		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	佐竹 直子
授業回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 (1単位)	2年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳幼児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１，２	乳児保育の基本
３，４	子どもの生活の流れ（０歳児クラス）
５，６	子どもの保育環境（０歳児クラス）
７，８	子どもの援助の実際（０歳児クラス）
９，10	子どもの生活の流れ（１歳児クラス）
11，12	子どもの保育環境（１歳児クラス）
13，14	子どもの援助の実際（１歳児クラス）
15，16	子どもの生活の流れ（２歳児クラス）
17，18	子どもの保育環境（２歳児クラス）
19，20	子どもの援助の実際（２歳児クラス）
21，22	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
23，24	集団での生活における配慮
25，26	環境の変化や以降に対する配慮
27，28	長期的な指導計画と短期的な指導計画
29，30	授業全体のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「新基本保育シリーズ⑮乳児保育Ⅰ・Ⅱ」(中央法規)、 「保育所保育指針解説」最新版(フレーベル館)、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版(フレーベル館)	(試験やレポートの評価基準など) レポート 50%　試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの健康と安全 （子どもの健康と安全）		（講義・演習・実習）	鹿間久美子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	2年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解できる。
・子どもの疾病とその予防、及び適切な対応について理解できる。

［授業全体の内容の概要］

子どもは常に発育・発達している存在です。特に乳幼児期は、病気に対する抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さもあり、保育の現場では健康状態、発達状態を把握し、適切な判断に基づく対応を求められます。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

子どもの感染症や病気を中心に健康について理解するとともに健康管理や保育者としても自分の心身の健康について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　子どもの健康と保育の環境
３，４　子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康
５，６　衛生管理
７，８　事故防止および安全対策
９，10　災害への備えと危機管理
11，12　体調不良や傷害が発生した場合の対応
13，14　救急処置および救急蘇生法
15，16　感染症の集団発生と予防、対応
17，18　保育における保健的対応の基本的考え方
19，20　３歳未満児への適切な対応
21，22　個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
23，24　障害のある子どもへの適切な対応
25，26　職員間の連携・協働と組織的取り組み
27，28　保育における保健計画および評価
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑯子どもの健康と安全」（中央法規）、「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健Ⅰ・Ⅱ」（日本小児医事出版社）	（試験やレポートの評価基準など） 試験50%　レポート50%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
障害児保育 (障 害 児 保 育)		(講義・演習・実習)	岡麻衣子 宮島純恵
授業回数 60回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年生・通年	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
・障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

[授業全体の内容の概要]

個々の障がい特性を理解し、障がい児だけでなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に着ける。障害については、肢体不自由児、知的障害児、発達障害児、重症心身障害児、医療的ケア児など幅広い障害の理解と援助について広く学ぶ。その理解を踏まえ、指導計画・個別の支援計画や職員間や地域との連携についても学んでいく。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・発達障がいを理解し、統合保育(教育)について自分の考えを持つことができる。
・障がい者福祉の歴史を理解し、地域の中で障がい児を支援するネットワークを理解することができる。
・障がいを正しく理解し、コミュニケーション、リーダーシップなど、障がい児保育をするうえで必要な力を身に着ける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1，2 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷	31 32 重症心身障害児の基本的理解
3，4 障害のある子どもの地域社会参加と合理的配慮	33 34 重症心身障害児への各分野からのアプローチ①
5，6 肢体不自由児	35 36 重症心身障害児への各分野からのアプローチ②
7，8 知的障害児	37 38 どのように“ヒト”や“モノ”を伝えるか
9，10 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等	39 40 どのように“場所”や“状況”を伝えるか
11，12 発達障害児 (ADHD、LD、PDD)	41 42 新生児集中治療室 (NICU)
13，14 重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を要する子ども	43 44 盲ろうの子どもとのかかわり①
15，16 指導計画及び個別の支援計画の作成	45 46 盲ろうの子どもとのかかわり②
17，18 生活や遊びの環境および子ども同士の関わりと育ち合い	47 48 超重症児とのかかわり①
19，20 子どもの健康と安全	49 50 超重症児とのかかわり②
21，22 職員間の連携・協働	51 52 医療的ケア児と家族の日々
23，24 保護者や家庭に対する理解と支援	53 54 重症心身障害児の家族支援と今後の課題
25，26 障害児支援の制度の理解と地域における連携・協働	55 56 重症心身障碍児の就園支援
27，28 小学校等との連携	57 58 重症心身障碍児の就学支援
29，30 保健・医療・福祉・教育における現状と課題	59 60 授業全体のまとめ、試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「新基本保育シリーズ⑰障害児保育」(中央法規)、 「保育所保育指針解説」最新版(フレーベル館)、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版(フレーベル館)	(試験やレポートの評価基準など) レポート 50%　最終試験 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
社会的養護Ⅱ （社会的養護Ⅱ）		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 2年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。
・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

［授業全体の内容の概要］

本授業では、事例を通して社会的養護・施設養護の実際について理解を深めると共に、支援のあり方・計画について検討する。また、権利擁護、自立支援についてより具体的に検討し理解を深めると共に、被措置児童等虐待(施設内虐待)の問題などから教育者・保育者の倫理についても学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　子どもの権利擁護
３，４　社会的養護における子どもの理解
５，６　社会的養護の内容①　日常生活支援
７，８　社会的養護の内容②　心理的支援
９，10　社会的養護の内容③　自立支援
11，12　施設養護の生活特性および実際①　乳児院等
13，14　施設養護の生活特性および実際②　障害児施設等
15，16　家庭養護の生活特性および実際
17，18　アセスメントと個別支援計画の作成
19，20　記録および自己評価
21，22　社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
23，24　社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
25，26　社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）
27，28　社会的養護における家庭支援
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑱社会的養護Ⅱ」（中央法規）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所、子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
子育て支援 （ 子 育 て 支 援 ）		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	平澤一郎
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 2年生・後期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。

［授業全体の内容の概要］

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。特にこれまで学んだ保育技術に加え、ソーシャルワークの技術をどのように保育現場に生かしていくかについての理解を深めていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

子育て支援の実施について事例を通して具体的に理解する。保育相談支援の基本を学び、実践する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２　子どもの保育とともに行う保護者の支援
３，４　日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
５，６　保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解
７，８　子どもおよび保護者の状況・状態の把握
９，10　支援の計画と環境の構成
11，12　支援の実践・記録・評価・カンファレンス
13，14　職員間の連携・協働
15，16　社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
17，18　保育所等における支援
19，20　地域の子育て家庭に対する支援
21，22　障害のある子どもおよびその家庭に対する支援
23，24　特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援
25，26　子ども虐待の予防と対応
27，28　要保護児童等の家庭に対する支援
29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「新基本保育シリーズ⑲子育て支援」（中央法規）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）、「育つ・つながる 子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト」（チャイルド本社）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所、子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅰ （保育実習指導Ⅰ）		（講義・演習・実習）	宮島純恵 三河覚子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （2単位）	配当学年・時期 2年生・通年	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育実習の意義・目的を理解する。
・保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。
・実習の流れと実習の心得を学ぶ。
・実習の目標・実習課題を学ぶ。
・事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。

［授業全体の内容の概要］

実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。（演習）保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。
・実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。
・実習の流れ・心得を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　実習の意義・目的の再確認
2　実習先施設について調べる（実習区分ごとにグループ
3　養護系施設と障がい系施設の共通点
4　養護系施設と障がい系施設の相違点
5　基本的人権の尊重
6　地域支援
7　社会福祉の理念（ノーマライゼーション、エンパワメント）
8　実習直前の確認事項
9　実習の振り返り
10　自己評価、次回に向けての目標作成

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など） レポート		
「新基本保育シリーズ⑳保育実習」（中央法規）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）			
実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
特別支援教育		（講義・演習・実習）	岡　麻衣子
授業回数 15回	時間数（単位数） 15時間 （1単位）	配当学年・時期 2年生・前期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができる。
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児の生活上および認知機能における困難についての基礎的な知識を説明することができる。
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、個別の教育計画の役割を踏まえながら例示することができる。関係機関の位置づけやその必要性について説明することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程①
2　特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程②
3　発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性①
4　発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性②
5　知覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性①
6　知覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性②
7　子供のニーズに合わせた支援①
8　子供のニーズに合わせた支援②
9　教育チームによる組織的支援①
10　教育チームによる組織的支援②
11　特別支援教育コーディネーター①
12　特別支援教育コーディネーター②
13　保護者・家庭支援と連携①
14　保護者・家庭支援と連携②
15　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「特別支援教育」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの理解と相談支援		（講義・演習・実習）	中塚良子
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （2単位）	配当学年・時期 2年生・前期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。

［授業全体の内容の概要］

相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　こどもの実態に応じた発達や学びの把握
3，4　相談支援の基本
5，6　こどもを理解する視点①
7，8　こどもを理解する視点②
9，10　こどもを理解する方法①
11，12　こどもを理解する方法②
13，14　こどもを理解する方法③
15，16　こどもの自己理解を進める技法　こどもの自己表現と自己理解の発達
17，18　幼児・こども理解とカウンセリング・マインド
19，20　幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援
21，22　小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援
23，24　相談支援の実際①（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち）
25，26　相談支援の実際②（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント）
27，28　相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携）
29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「こどもの理解と相談支援」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）、「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
健康論		（講義・演習・実習）	宮島純恵
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	15時間（1単位）	2年生・前期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

主に乳幼児期の子どもたちの健康に対する知識と発育発達について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身に付ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　乳幼児期の健康
2　乳幼児期の心と体の発達と健康課題
3　乳幼児期の諸機能の発達と健康課題
4　健康の定義と乳幼児期の健康の意義
5　乳児期の体の発達的特徴
6　乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義
7　乳幼児期の安全教育に関する基本的な考え方
8　乳幼児期の健康管理に関する基本的な考え方
9　乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防
１０　乳幼児期の危険に関するリスク・ハザード
１１　乳幼児期の運動発達の特徴
１２　乳幼児期の生活・遊びと安全管理
１３　乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義
１４　日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮
１５　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「健康論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育園・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
環境論		（講義・演習・実習）	三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	15時間（1単位）	2年生・前期	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。
また、環境を通して行う保育の意味をしっかり学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。

［授業全体の内容の概要］

様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考え、環境を通して行う保育の意味を知る。保育環境のデザインを実践し、様々な環境との出会いを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　環境の定義①　環境という言葉、環境の定義
2　環境の定義②　環境を通して行う保育の意味
3　領域「環境」の位置づけ①　ねらい・内容
4　領域「環境」の位置づけ②　内容の取扱
5　領域「環境」の位置づけ③　指導計画
6　保育における環境（保育と環境）①　人的環境・物的環境
7　保育における環境（保育と環境）②　自然環境、社会・文化環境
8　幼児の身近な環境との関わり①　室内・室外
9　幼児の身近な環境との関わり②　文字・標識・数量・図形
１０　行事①　季節の行事
１１　行事②　地域の行事
１２　地域・施設との関わり①　各施設の訪問
１３　地域・施設との関わり②　国際理解
１４　地域探検①　住んでる町を知ろう
１５　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「環境論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
音楽技術Ⅱ （保育の内容・方法に関する科目）		（ 講義 ・ 演習 ・実習 ）	土田智子 金山志保
授業回数 120回	時間数（単位数） 120時間 （4単位）	配当学年・時期 2年生・通年	必修・選択 選択
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

・保育現場で必要とされる音楽技術（主にピアノ）を身に付ける。
・日常的に音楽に触れることを習慣化する

［授業全体の内容の概要］

1年次での音楽技術Ⅰの授業を経て、更なるピアノスキル向上を目指していく。2年次では、生活の歌に加え、季節の歌の弾き歌いができるように、個々のスキルレベルに合わせて課題を細かく設定していくなどして、指導を行っていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・各自のスキルに合わせてのピアノ伴奏ができるようになる。
・保育現場での季節の歌の弾き歌いがある程度できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　前期授業オリエンテーション
2　基本の伴奏、楽譜の読み方①
3　基本の伴奏、楽譜の読み方②
4　基本の伴奏、楽譜の読み方③
5～30　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
31，32　中間試験（到達度チェックテスト）
33～58　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
59，60　前期試験（到達度チェックテスト）
61　後期授業オリエンテーション
62～90　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
91，92　中間試験（到達度チェックテスト）
93～118　個別指導レッスン（各自のレベルに合わせて、課題設定、個別レッスンを行う）
119，120　卒業記念ピアノ演奏会（兼　後期試験）

［使用テキスト・参考文献］

「こどもの歌ベストテン」㈱ドレミ楽譜出版社
「音楽表現論」（豊岡短期大学テキスト）
「こどもの指導法 音楽表現」（豊岡短期大学テキスト）

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

授業態度（中間試験の内容を含む）　30%
前期試験　30%
後期試験　40%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
表現とこどもの運動 （保育内容の理解と方法）		（講義・演習・実習）	佐藤政志
授業回数 30回	時間数（単位数） 30時間 （1単位）	配当学年・時期 2年生・前期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを発達段階に沿って展開されることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。

［授業全体の内容の概要］

こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解説明し身に付ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1,2　社会的背景を考慮しつつ①　運動遊びのねらい

3,4　社会的背景を考慮しつつ②　運動遊びの援助について（個別の支援計画等）

5,6　こどもの発達と運動について①　身体・形態・機能・こころの発育発達

7,8　こどもの発達と運動について②　こどもと運動

9,10　運動遊びの基本的な動き①　基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）

11,12　運動遊びの基本的な動き②　運動表現の要素（調整力・身体認知・空間認識）

13,14　身体コントロール能力の向上①　調整力中心の体つくり運動

15,16　身体コントロール能力の向上②　音・色などの刺激に対応する運動

17,18　こどもの表現運動Ⅰ①　表現運動実施の教育的意義

19,20　こどもの表現運動Ⅰ②　身体表現運動とは

21,22　こどもの表現運動Ⅱ①　身体表現運動のねらい

23,24　こどもの表現運動Ⅱ②　実施上の留意点

25,26　発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践）①　年齢別発達における表現遊び

27,28　発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践）②　手遊びとリズム表現

29,30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「表現とこどもの運動」（豊岡短期大学テキスト）、 「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、 「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） レポート　50%　　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園、保育園、認定こども園での子どもへの指導歴約15年

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅱ （保育実習指導Ⅱ）		（講義・演習・実習）	宮島純恵 三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 （2単位）	2年生・通年	選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。
2. 今まで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。
3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。
また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の設定ができる。
2. 実習を振り返り、保育所の保育者や子どもの実際について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

＜実習事前指導＞

1 2 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定
3 4 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(1)　子どもの発達
5 6 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(2)　5領域のねらいと現場での視点
7 8 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(3)　5領域の内容と現場での視点
9 10 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(4)　資質・能力の3つの柱
11 12 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(5)　10の姿の視点
13 14 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(6)　子どもの基本的生活習慣の獲得と保育支援
15 16 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(7)　遊びを展開するための知識と環境設定の知
17 18 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(8)　子どもの心に寄り添うとは何かについて
19 20 保育知識のおさらいと実習で身に付けてほしいこと(9)　環境構成の技術と人間関係構築の技術
21 22 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点
23 24 責任実習の指導案作成演習①
25 26 責任実習の指導案作成演習②
27 28 責任実習の指導案作成演習③
29 30 責任実習の指導案作成演習④
31 32 カリキュラム・マネジメント①
33 34 カリキュラム・マネジメント②
35 36 養護の重要性①
37 38 養護の重要性②
39 40 乳児保育技術練習①（0歳児保育）
41 42 乳児保育技術練習②（1歳児保育）
43 44 乳児保育技術練習③（2歳児保育）
45 46 責任実習の指導案作成演習⑤
47 48 責任実習の指導案作成練習⑥
49 50 責任実習の指導案作成練習⑦
51 52 実習上の諸注意のまとめ①（保育者としての倫理、自己評価ルーブルックの作成）
53 54 実習上の諸注意のまとめ②（守秘義務、プライバシーの保護）
55 56 実習の振り返り、自己評価の作成
57 58 保育士としての課題の明確化
59 60 保育専門職としての意識

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）、「幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）	（試験やレポートの評価基準など） レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（レポート評価はルーブリック評価を用い行う）

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅲ （保育実習指導Ⅲ）		（講義・演習・実習）	宮島純恵 三河覚子
授業回数 60回	時間数（単位数） 60時間 （2単位）	配当学年・時期 2年生・通年	必修・選択 選択
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

1. 児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。
2. 児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。
3. 児童福祉以外の社会福祉施設について知る。
4　老人福祉・障害者福祉における保育者の役割等簡単に理解する。
5. 施設内の連携、他機関との連携について理解する。
6. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

保育実習Ⅰ（施設）での実習を振り返ると共に、施設での実習で何を学んできたいのか、そのためにはどのような準備や学習が必要なのかというところを事前に学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 子ども支援、親支援の現状について、保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考えることができる。
2. 実習を振り返り、実習施設種の抱える問題、そこで働く職員の職種と職務内容、子どもたちが置かれた現状について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

＜実習事前指導＞

1 2 児童福祉施設の施設種の理解　・施設の現状と問題点について
3 4 社会的養護の現状について
5 6 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点①（調べ学習）
7 8 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点②（調べ学習）
9 10 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点③（発表）
11 12 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点④（発表）
13 14 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状①　児童虐待の現状と対策
15 16 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状②　子どもの貧困の現状と対策
17 18 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状③　養育環境の変化
19 20 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状④　少年非行の現状と対策
21 22 乳児院・児童養護施設への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際
23 24 児童自立支援施設への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際
25 26 母子生活支援施設への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際
27 28 家庭的養護、家庭養護の現状と実際
29 30 児童相談所、福祉事務所等、福祉行政機関の役割
31 32 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点①　身体障害
33 34 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点②　知的障害
35 36 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点③　精神障害
37 38 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点④　発達障害
39 40 障害児入所施設への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際
41 42 児童発達支援センターへの入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際
43 44 障害者支援施設への入所理由の理解と利用者支援・親支援の実際
45 46 指定障害福祉サービス事業所への入所理由の理解と利用者支援・親支援の実際
47 48 部分実習・責任実習に向けての指導案の立案の仕方と実施のための留意点①
49 50 部分実習・責任実習に向けての指導案の立案の仕方と実施のための留意点②
51 52　実習上の諸注意のまとめ①（保育者としての倫理、自己評価ルーブルックの作成）
53 54 実習上の諸注意のまとめ②（守秘義務、プライバシーの保護）
55 56 事後指導における実習の総括と評価①　実習の総括と自己評価
57 58 事後指導における実習の総括と評価②　自分の保育者としての課題の明確化
59 60 保育専門職としての意識

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）、「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著（わかば社）	（試験やレポートの評価基準など） レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（レポート評価はルーブリック評価を用い行う）

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「健康」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	宮島 純恵
授業回数 30回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年生・前期	必修・選択 必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

[授業の目的・ねらい]

乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。そこで必要となる健康指導を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1，2　領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観

3，4　こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」

5，6　乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達

7，8　発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本

9，10　子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン

11，12　子どもの健康と虐待

13，14　基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点

15，16　食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る

17，18　子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割

19，20　発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解

21，22　安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練

23，24　情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解

25，26　健康と自然環境、園外保育の活動内容

27，28　園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解

29，30　保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ、テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「幼稚園教育要領解説」最新版(フレーベル館)、 「保育所保育指針解説」最新版(フレーベル館)、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版(フレーベル館)	(試験やレポートの評価基準など) 受講態度　20%　課題　20%　試験　60%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育所にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「環境」 （保育内容演習）		（講義・演習・実習）	三河覚子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。また、保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。

［授業全体の内容の概要］

環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。またグループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　環境とは　環境という言葉、環境の定義

3，4　環境とは　環境を通して行う保育の意味

5，6　領域「環境」の位置づけ　ねらいと内容

7，8　領域「環境」の位置づけ　指導上の留意点と指導計画、評価の考え方

9，10　身近な環境の構成（指導案の構成と作成）　指導案の作成による人的環境・物的環境の理解

11，12　身近な環境の構成（指導案の構成と作成）　視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解

13，14　保育における環境の重要性と小学校との連続性　好奇心・探究心

15，16　保育における環境の重要性と小学校との連続性　思考力の芽生え

17，18　保育環境のデザイン　視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解

19，20　保育環境のデザイン　指導案作成（実際の指導案作成とデザインを図示指導）と模擬保育の振り返りによる保育環境理解

21，22　保育者の3つの役割
①環境要素の一つ　②保育実践から見えるコーディネーター的役割　③こども同士のかかわりあいから考える保育構想

23，24　さまざまな環境との出会い　標識・文字との出会い

25，26　さまざまな環境との出会い　数量と図形・ものの性質との出会い

27，28　こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題（小学校との連携など）

29，30　授業全体のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］	
「環境論」（豊岡短期大学テキスト）、「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　10%　課題　30%　試験　60%	
実務授業の有無：有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「言語表現」 （保育内容の理解と方法）		（講義・演習・実習）	佐竹直子
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

乳幼児期におけるり各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1，2　こどもの言語表現指導法と指導案の作成
　幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容

3，4　こどもの言語表現指導法と指導案の作成　言語表現の指導法及び指導案の作成

5，6　児童文化財による乳幼児の言語表現活動　言語表現活動の意義と範囲

7，8　児童文化財による乳幼児の言語表現活動　言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法

9，10　言語表現が豊かになる児童文化財の指導　絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点

11，12　言語表現が豊かになる児童文化財の指導　わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点

13，14　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（1）
　絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法

15，16　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（1）
　絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法

17，18　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（2）
　絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成

19，20　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（2）
　絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り

21，22　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（3）
　わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法

23，24　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（3）
　わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のＡＶ教材を活用と留意点

25，26　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（4）
　わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のＡＶ教材を活用した、指導案の作成と評価方法

27，28　言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（4）
　わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り

29，30　授業のまとめ、テスト

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　20%　課題　30%　試験　50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育士経験、保育園・認定こども園園長5年、子育て支援NPO代表

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
こどもの指導法「音楽表現」 （保育内容の理解と方法）		（講義・演習・実習）	土田智子 高橋奈緒美 金山志保
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （1単位）	1年生・後期 2年生・前期、後期	必修
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

領域「表現」は幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。
音楽表現活動の在り方や実践の方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。
また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、
より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解
2　表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践
3　乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解
4　表現活動における伴奏の方法と実践
5　映像視聴による身近にある音風景「自然の音」「身の回りの音」への気づきと表現方法
6　サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法
7　音の仕組み、「歌う」表現活動の理解
8　乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法
9　映像を活用した０、１、２歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践
10　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法
11　映像を活用した３、４、５歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践
12　乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法
13　「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践
14　「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法
15　領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用
16　他の領域と関連した生活や行事などをテーマとした曲の理解と弾き歌いの実践
17　指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方
18　模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究
19　指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点
20　模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践
21　模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議
22　模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践
23　模擬保育「わらべうた・伝承あそびを楽しむ」の実践と指導案の討議
24　模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践
25　模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議
26　模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践
27　ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解
28　保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践
29, 30　小学校１年生、教材「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ、最終試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「音楽表現論」（豊岡短期大学テキスト） 「幼稚園教育要領解説」最新版（フレーベル館）、 「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館）、 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」最新版（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 受講態度　20%　課題　50%　試験　30%

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育基礎演習Ⅱ		（講義・演習・実習）	平澤一郎
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間（1単位）	2年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育者として求められる知識の他に「読み」「書き」「話す」力の育成を図る。

［授業全体の内容の概要］

毎週課題テキストの中から、該当する部分を読み、レジュメを作成してくる。
そのレジュメを基にし、毎回テーマに沿ってのディベートを行っていく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

2年次では、ディベートを取り入れることで、論理的な思考ができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　グループ分け、分担決め
2　ディベートの練習①
3　ディベートの練習②
4　「子どもの『今』を護れるか」第1章　ディベート
5　「子どもの『今』を護れるか」第2章　ディベート
6　「子どもの『今』を護れるか」第3章　ディベート
7　「子どもの『今』を護れるか」第4章　ディベート
8　「子どもの『今』を護れるか」第5章　ディベート
9　「考える障害者」第1章　ディベート
10　「考える障害者」第2章　ディベート
11　「考える障害者」第3章　ディベート
12　「考える障害者」第4章　ディベート
13　「考える障害者」第5章　ディベート
14　「考える障害者」第6章　ディベート
15　「考える障害者」第7章　ディベート
16　授業オリエンテーション
17　「保育園義務教育化」第1章　ディベート
18　「保育園義務教育化」第2章　ディベート
19　「保育園義務教育化」第3章　ディベート
20　「保育園義務教育化」第4章　ディベート
21　「保育園義務教育化」第5章　ディベート
22　「お姫様とジェンダー」第1章　ディベート
23　「お姫様とジェンダー」第2章　ディベート
24　「お姫様とジェンダー」第3章　ディベート
25　「お姫様とジェンダー」第4章　ディベート
26　「お姫様とジェンダー」第5章　ディベート
27　グループごとに課題発表内容の検討①
28　グループごとに課題発表内容の検討②
29　課題発表①
30　課題発表②

［使用テキスト・参考文献］

前原寛(2018)「子どもの『今』を護れるか」創成社新書、ホーキング青山(2017)「考える障害者」新潮社、若桑みどり(2003)『お姫様とジェンダー――アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』ちくま書房、古市憲寿『保育園義務教育化」小学館

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

毎回提出のレジュメ　25%
授業中での発言など取り組み状況 25%
最終レポート 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	幼稚園・保育園にて11年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育総合演習Ⅱ		（講義・演習・実習）	平澤一郎　三河覚子 宮島純恵
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 （2単位）	2年生・前期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

1～3年全員合同クラスを3グループ作り、授業展開を行っていく。
異年齢の学年との交流を活かし、学年間で「学び合う」コミュニティの創造を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

毎授業は学生主体の模擬保育を中心に行われ、実習後には実習報告会を行うなどし、
上の学年の知識と技術を下の学年へと継承していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

2年次のこの授業では当番制での保育者役となり、学生を子ども役として模擬保育を行っていく。
実際に保育を行っていく中で、実習前の準備となり、自己の保育観が育成できるようにしていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

※この授業は、3年制学科「こども医療保育科」と合同で実施する

コマ数

1　授業オリエンテーション　クラス分け
2　各グループごとに自己紹介、アイスブレーク
3　模擬保育　3年生①
4　模擬保育　3年生②
5　模擬保育　3年生③
6　模擬保育　3年生④
7　模擬保育　3年生⑤
8　模擬保育　3年生⑥
9　模擬保育　2年生①
10　模擬保育　2年生②
11　模擬保育　2年生③
12　模擬保育　2年生④
13　模擬保育　2年生⑤
14　模擬保育　2年生⑥
15　3年生　実習報告会①
16　3年生　実習報告会②
17　模擬保育　2年生⑦
18　模擬保育　2年生⑧
19　模擬保育　2年生⑨
20　模擬保育　2年生⑩
21　模擬保育　3年生⑦
22　模擬保育　3年生⑧
23　模擬保育　3年生⑨
24　模擬保育　3年生⑩
25　2年生　実習報告会①
26　2年生　実習報告会②
27　1年生　絵本読み聞かせ①
28　1年生　絵本読み聞かせ②
29　1年生　絵本読み聞かせ③
30　1年生　絵本読み聞かせ④
31　授業オリエンテーション　クラス分け
32　各グループごとに自己紹介、アイスブレーク
33　模擬保育　3年生⑪
34　模擬保育　3年生⑫
35　模擬保育　2年生⑪
36　模擬保育　2年生⑫
37　模擬保育　1年生①
38　模擬保育　1年生②
39　模擬保育　1年生③
40　模擬保育　1年生④
41　模擬保育　1年生⑤
42　模擬保育　1年生⑥
43　3年生　実習報告会③
44　3年生　実習報告会④
45　2年生　実習報告会③
46　2年生　実習報告会④
47　模擬保育　1年生⑦
48　模擬保育　1年生⑧
49　模擬保育　3年生⑬
50　模擬保育　3年生⑭
51　模擬保育　2年生⑬
52　模擬保育　2年生⑭
53　1年生　実習報告会①
54　1年生　実習報告会②
55　模擬保育　3年生⑮
56　模擬保育　3年生⑯
57　模擬保育　2年生⑮
58　模擬保育　2年生⑯
59　模擬保育　2年生⑰
60　授業のまとめ、振り返り

［使用テキスト・参考文献］

特になし

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

出席　50%　模擬保育での学生評価　25%%
模擬保育での教員評価　25%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
就職実務Ⅱ		（講義・演習・実習）	平澤一郎 宮島純恵
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	30時間 （2単位）	2年生・後期	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

・社会人として働く上での一般的知識を身に付ける
・保育者として「チームで協力して、物事を解決する」方法を身に付ける
・今後のキャリア計画を立てることができる。

［授業全体の内容の概要］

本授業の中では大きく3つの柱を立てる。1つめは保育士としての専門性を考えること。2つめは保育士としてのキャリアを考えること。3つめは社会人としての一般教養である。この3点に関しての授業を展開していく。講義だけではなく、映像やディスカッションなども取り入れながら学生自身が考えながら取り組めるように授業を展開していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・保育士としての専門性を意識して仕事を行うことができる
・保育士としてのキャリアを考えながら仕事を遂行することができる
・社会人としての一般常識や教養を身に付ける

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 キャリアデザインを考える
2 職場での人間関係作り
3 自己分析① 自分自身を発見する
4 自己分析② 自分のPOPを作ってみる
5 自己PR① 話をするときの3ステップ
6 様々な発想法・思考法① ブレインストーミング
7 様々な発想法・思考法② KJ法
8 ライフプランニング
9 現代社会の理解① 金銭感覚を見直す
10 現代社会の理解② 収入と支出のバランス
11 現代社会の理解③ 経済成長率
12 求められる人材① 社会人基礎力
13 求められる人材② 社会で求められる人材になるには
14 自己PR② 自分を売り込む方法
15 キャリアデザイン理論のまとめ
16 「働く」ことを考える① DVD「漫画家の仕事」から考える
17 「働く」ことを考える② DVD「小児科医の仕事」から考える
18 「働く」ことを考える③ ライフスタイルと働き方について考える
19 「働く」ことを考える④ ライフスタイルと社会保険について考える
20 「保育士の専門性」を考える① DVD「保育士の義務」から見える専門性
21 「保育士の専門性」を考える② 保育所保育指針10の姿から考える専門性
22 「保育士の専門性」を考える③ DVD「障害児施設での業務」から見える専門性
23 「保育士の専門性」を考える④ 文献「AI時代の子どもたち」から考える専門性
24 社会人としての「マナー」を考える① 言葉遣いの基本
25 社会人としての「マナー」を考える② 来客対応、案内の要領、名刺の取り扱い
26 社会人としての「マナー」を考える③ 来客対応のロールプレイ
27 社会人としての「マナー」を考える④ 電話対応、伝言メモの作成、電話のかけかた
28 保育士としてのキャリアを考える① ステップアップの資格、大学編入制度
29 保育士としてのキャリアを考える② 職員研修での学び方
30 試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］ （試験やレポートの評価基準など）
岩井洋他「キャリアデザイン」弘文堂 「秘書検定 3級問題集 実践編」ウィネット	最終試験 50%　授業中での取り組み 50%

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・子育て支援センターにて約5年勤務

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
教育実習（幼稚園）		（講義・演習・実習）	熊谷祐子
授業回数	時間数（単位数） 160時間 （4単位）	配当学年・時期 2年生・前期 2年生・後期	必修・選択 選択
授業形態	対面授業での実施		

［授業の目的・ねらい］

本実習は「幼稚園教諭2種免許」を取得するための幼稚園での4週間（2週間を2回に分けて）の実習である。
目的としては、大きく分けて4点ある。
①幼稚園を学ぶこと　②幼児から学ぶこと　③保育者（幼稚園教諭）から学ぶこと　④自分自身について学ぶこと　である。

［授業全体の内容の概要］

1．幼稚園の役割や機能の具体的展開
　・養護と教育が一体となって行われる保育（3歳以上児）
　・幼稚園の社会的役割と責任

2．観察に基づく保育の理解
　・子どもの心身の状態や活動の観察
　・幼稚園教諭の援助や関わり
　・幼稚園の生活の流れや展開の把握

3．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携　（保育園との違いに注目して）
　・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
　・入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
　・関係機関や地域社会との連携、協働

4．指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
　・全体的な計画に基づく指導計画の作成、実践、省察、評価と保育の過程の理解
　・作成した指導計画に基づく保育の実践と評価

5．幼稚園教諭の業務と職業倫理
　・多様な保育の展開と幼稚園教諭の業務
　・多様な保育の展開と幼稚園教諭の職業倫理

6．自己の課題の明確化

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1．幼稚園の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める
2．3歳以上児の子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める
3．既習の教科目や保育実習での経験を踏まえ、3歳以上児の子どもの保育について総合的に理解する
4．幼稚園における、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5．幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について、具体体な実践に結びつけて理解する。
6．実習における自己の課題を明確化する

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「教育実習事前事後指導」（豊岡短期大学）、「幼稚園教育要領解説書」（フレーベル館）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）	（試験やレポートの評価基準など） 実習先での評価、実習簿、実習事後レポート、実習報告会の内容を総合的に判断する

実務授業の有無	無	実務経験教員の経歴	

参考様式14

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）		授業の種類	授業担当者
保育・教職実践演習（幼稚園） （　保　育　実　践　演　習　）		（講義・演習・実習）	三河覚子 宮島純恵 柴田淳
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
60回	60時間 （2単位）	2年生・通年	必修
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施		

［授業の目的・ねらい］

保育者として必要な資質・能力を身につける。
自分にとって何が課題かをみつけ出し、それを補えるようにする。

［授業全体の内容の概要］

既に学んできた教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、自己の課題を自覚し、その克服と習得に努めます。さらに、教職生活を円滑にスタートできるよう、学校現場の視点を取り入れながら、保育者としての使命感・責任感のある実践的指導力の獲得を図ります。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

資質能力について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力を確認する。また、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識技能を補い、その定着を図る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１，２	保育者とは
３，４	子ども理解
５，６	学級経営
７，８	個と集団
９，10	遊びを通しての保育
11，12	環境を通しての保育
13，14	特別支援
15，16	子育て支援
17，18	導入の仕方と演習
19，20	保護者への対応
21，22	カウンセリングマインド
23，24	指導案・記録・自己評価
25，26	必要な資質と技能を身につける（１）
27，28	必要な資質と技能を身につける（２）
29，30	前半の授業のまとめ、中間テスト
31 32	保育者の仕事①　保育をめぐる社会的状況
33 34	保育者の仕事②　自ら育つ保育者となるために
35 36	保育の場における保育実践力①　保育の基本となる理念・根拠法令
37 38	保育の場における保育実践力②　子どもの自発性を引き出す環境
39 40	保育の場における保育実践力③　実践と省察の積み重ね
41 42	保育実践力をはぐくむ方法と内容①　グループによる学びあい
43 44	保育実践力をはぐくむ方法と内容②　ロールプレイング
45 46	保育実践力をはぐくむ方法と内容③　プレゼンテーション
47 48	保育実践力をはぐくむ方法と内容④　事例研究の方法
49 50	事例研究①　幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の連携
51 52	事例研究②　保育のねらいを踏まえた指導計画の作成
53 54	事例研究③　子どもの思いの理解と保育者の願い
55 56	事例研究④　子ども同士のトラブルにどのようにかかわるか
57 58	事例研究⑤　特別な配慮を必要とする子どもに対する援助と連携
59 60	後半の授業のまとめ、最終試験

［使用テキスト・参考文献］

「保育・教職実践演習」（豊岡短期大学テキスト）、
「保育・教職実践演習」建帛社
幼稚園教育要領、保育所保育指針他適宜プリントを配布する。

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

出席状況、授業態度、講義時の小レポート、レポートを総合して評価する。

実務授業の有無	有	実務経験教員の経歴	保育所・認定こども園にて約15年勤務